

院内フォーミュラリ（抗インフルエンザ薬:成人）

院内フォーミュラリ 推奨区分	推奨	推奨	オプション	オプション	オプション	
商品名	オセルタミビル カプセル75mg「サワイ」	オセルタミビル DS3%「サワイ」	リレンザ	ラピアクタ点滴静注液 バッグ300mg	ラピアクタ点滴静注液 バイアル150mg	イナビル吸入粉末剤20mg
一般名	オセルタミビル		ザナミビル	ペラミビル		ラニナミビル
規格	75mg	3%	5mg1プリスター	300mg/60mL	150mg/15mL	20mg
適応	A型又はB型インフルエンザウイルス感染症及びその予防			A型又はB型インフルエンザウイルス感染症		A型又はB型インフルエンザウイルス感染症及びその予防
用法・用量	<治療> 通常、成人及び体重37.5kg以上の小児には1回75mgを1日2回、5日間経口投与。 <予防> 【成人】1回75mgを1日1回、7～10日間経口投与。【体重37.5kg以上の小児】1回75mgを1日1回、10日間経口投与。 ※小児用量の詳細については添付文書参照		<治療> 成人及び小児には、1回10mg（5mgプリスターを2プリスター）を、1日2回、5日間、専用の吸入器を用いて吸入。 <予防> 成人及び小児には、1回10mg（5mgプリスターを2プリスター）を、1日1回、10日間、専用の吸入器を用いて吸入。	【成人】300mgを15分以上かけて単回点滴静注する。合併症等により重症化するおそれのある患者には、1日1回600mgを15分以上かけて単回点滴静注するが、症状に応じて連日反復投与できる。 【小児】10mg/kgを15分以上かけて単回点滴静注するが、症状に応じて連日反復投与できる。投与量の上限は、1回量として600mgまでとする。	<治療> 【成人、10歳以上の小児】40mgを単回吸入投与。【10歳未満の小児】20mgを単回吸入投与。 <予防> 【成人、10歳以上の小児】40mgを単回吸入投与。また、20mgを1日1回、2日間吸入投与することもできる。【10歳未満の小児】20mgを単回吸入投与。	
禁忌	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある者					
腎機能障害	腎機能障害に対して減量規定あり 透析患者：75 mg 単回投与。5 日後に症状が残っていた場合もう1 回投与する。		腎機能に応じた減量規定なし 透析患者：減量の必要なし	腎機能障害に対して減量規定あり 透析患者：慎重に投与量を調節の上投与すること（具体的な規定なし。透析日は透析後に投与）		腎機能に応じた減量規定なし 透析患者：減量の必要なし（使用経験が少ないため注意）
妊婦又は妊娠している可能性のある女性※	添：有益性投与（胎盤通過あり） 妊：安全		添：有益性投与（胎盤通過あり） 妊：安全	添：有益性投与（胎盤通過あり）、ウサギで流産及び早産が報告		添：有益性投与（胎盤通過あり）
授乳婦※	添：有益性投与（乳汁移行あり） 妊：安全 Hale：L2（おそらく適合）		添：有益性投与（乳汁移行あり） 妊：安全 Hale：L2（おそらく適合）	添：有益性投与（乳汁移行あり）		添：有益性投与（乳汁移行あり） 妊：安全
重大な副作用	ショック、アナフィラキシー、肺炎、劇症肝炎、肝機能障害、Stevens-Johnson症候群、急性腎障害、白血球減少、血小板減少、異常行動、出血性大腸炎、虚血性大腸炎		ショック、アナフィラキシー、気管支攣縮、Stevens-Johnson症候群、異常行動	ショック、アナフィラキシー、肺炎、劇症肝炎、肝機能障害、Stevens-Johnson症候群、急性腎障害、白血球減少、血小板減少、異常行動、出血性大腸炎		ショック、アナフィラキシー、気管支攣縮、Stevens-Johnson症候群、異常行動
その他			乳糖含有のため乳製品のアレルギー患者には注意	予防投与不可		・1容器あたり20mgを含有し、薬剤が2カ所に充填されている（1カ所あたり10mg） ・乳糖含有のため乳製品のアレルギー患者には注意
会社名	沢井		グラクソ・スミスクライン	塩野義		第一三共
薬価	111.6円/カプセル	82.4円/g	120.6円/プリスター	6,331円/袋	3,400円/バイアル	2,179.50円/キット
薬剤費概算 1治療あたり	1,116円（10割） 335円（3割） 112円（1割）	2,060円（10割） 618円（3割） 206円（1割）	2,412円（10割） 724円（3割） 241円（1割）	300mg単回投与の場合 6,331円（10割） 1,899円（3割） 633円（1割）		4,359円（10割） 1,308円（3割） 436円（1割）
採用区分	院内外共通	院内外共通	院内外共通	通常購入	通常購入	院内外共通
先発・後発区分	後発品	後発品	先発品	先発品	先発品	先発品

※添：添付文書、妊：妊娠と授乳、Hale：ハイル薬と母乳より引用。詳細は電子カルテトップ→DIニュース→お役立ち情報「妊娠・授乳婦と薬」を参照

2025/3/19

薬事委員会 作成

参考文献：各種添付文書および製薬企業HP、第3版 透析患者への投薬ガイドブック、インフルエンザ治療薬フォーミュラリ ver.3.0（日本フォーミュラリ学会）